

日塗工県支部

青年部・彩青会の講習会

シーリング材が題材

日本塗装工業会埼玉東支部青年部・彩青会は13日、さいたま市南区の建産連研修センターで講習会を開催。シーリング材についての新たな知識を共有した。

西浦建費会長はあいさつで、彩青会は「県内に事業所を置く若手経営者もしくは、のちに経営を担っていく若手の人材を中心とした組織」と説明。そして、講習内容について「シーリング材の上塗りとの適合性を中心に、さまざまな商品を組み合わせて、曝露して行くなかでどのような変化が見られるかを具体的な事例を挙げて解説します」と述べた。



建産連研修センターで開催した講習会

講習会は「塗装下地におけるシーリング材の重要性について」と題して、シャープ化学工業㈱営業部東京営業所の笠原康弘係長が登場。シーリング材の種類は、シリコン系、ポリアウレタン系、変成シリコン系、アクリル系の4種で、それぞれに特徴があることを解説。さらに、シャープ化学工業㈱では、同社シーリング材と各社塗料との塗装性評価試験を行い、相性テストデータを積み上げている事などを紹介した。